

1 主題名 自由と責任について考える【A－（1）善悪の判断、自律、自由と責任】

2 教材名 修学旅行の夜

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目A－（1）は、「自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、責任ある行動について自律的に判断する力を育てること」をねらいとしている。6学年の発達段階においては、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まる時期である。自由とは、人間にとって大切なものである。また、自分の自由だけでなく、他人の自由も尊重することが求められる。自分の自由を主張するあまり、他人に迷惑をかけることは各自の自律的判断で慎まなければならない。

そこで、児童が本当の意味の自由について話し合うことを通して、自由と共に責任をもって行動する態度を養うことができると考え、この主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発である。6年生に進級し、委員会やクラブ活動、たてわり班活動などでリーダーとして全体をまとめる場面が多くなり、自分の活動だけでなく、友達と協力しながら責任をもって取り組むことができるようになってきた。また、下学年のお手本になって行動しようという気持ちも高まっている。しかし、一方で、最高学年として自律的な行動ばかりを要求されがちで、自由がないという声を耳にすることもある。また、自律的で責任のある行動をすることの意味やよさが分かりにくい児童もいて、自分のしたいことを優先して、周りに迷惑をかけてしまう場面も見られる。

そこで本時では、自由と自分勝手の違いについて話し合うことを通して、自由と責任への理解を一層深め、自律的に判断する力を育てたい。

(3) 教材について <教材名「修学旅行の夜」、「新しい道徳」東京書籍>

本教材は、修学旅行の夜、消灯後も大騒ぎをしてしまうという実際によくある行動を取り上げ、自由と責任との関わりについて考える教材である。この班では、夕食後の話題で「自由にしたい」と言いながらも、「できるだけ静かに寝よう」ということになった。しかし消灯後、次第に楽しい気分になり、まくら合戦になってしまう。そこへ至るまでの班長の心の動き、先生の言葉、その後のみんなの様子など、身近で現実的な事件を追いながら、ねらいに迫るよう構成されている。本校では、9月に修学旅行を予定しており、児童は現在、めあてを決めたり、計画を立てたりして準備を進めている。自分だったらどうするか、登場人物に自我関与させながら考えることで、自由には責任を伴うことに気付かせ、ねらいに迫る手立てとしたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

○自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重するとともに、責任ある行動について自律的に判断しようとする態度を育てる。

(2) 準備・資料

・道徳ノート ・場面絵 ・タブレット ・プロジェクター ・スクリーン ・ホワイトボード
・ネームカード

(3) 展 開

主な活動と発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ○個への配慮 (評)評価 ☆タブレット
1 問題意識をもち、学習課題について話し合う。 ○あなたにとって「自由」とは、どんなことでしょう。 「本当の自由」とは何だろう。 2 教材「修学旅行の夜」を読んで話し合う。 ○「修学旅行の夜、人に迷惑をかけるように気を付けておしゃべりする」ことは、「自由」か「自分勝手」のどちらでしょうか。 (1) 自分で考える。 ・【自由】の理由 ・【自分勝手】の理由 (2) ペアで話し合う。 ・前半 【自由】⇔【自分勝手】 ・後半 【自分勝手】⇔【自由】  ◎「本当の自由」とはどういうことでしょう。 (1) グループで話し合う。 (2) 全体で共有する。 3 自分の経験について振り返る。 (1) これまでの自分はどうか考えたか考える。 (2) 今日の学習の中で、自分が考えたことや今までの自分を振り返って、これからどうしていきたいかや大切だったことをノートに書く。	・好きなことをすること。 ・誰にも何も言われないこと。 ・自分の思うように生活すること。 【自由】 ・みんな、本当はおしゃべりがしたいのだから、自分たちがしたいことをするのが自由。 ・迷惑をかけていないのだから自由。 【自分勝手】 ・全員がおしゃべりしたいわけではない。一部の人自分中心に考えている。 ・寝たい人がいるとしたら、やはり迷惑になるから、自分勝手。 ・自分の思うことをするけれど、周りの人のことも考えることが大事だと思う。 ・みんなの自由も守られなければ本当の自由ではないかな。 ・人に迷惑をかけないのが、自由の条件かな。 ・自分の責任で解決できるのが自由だと思う。 ・自由行動では、何でも好きなことをしていいと思っていたけれど、周りの人のことも考えて、責任ある行動をするようにしたい。 ・自分がしたいことを優先していただけれど、自分勝手だったから、友達のこと考えるようにしたい。	・普段の生活の中での「自由」だと思える場面を思い起こさせることにより、本時の内容への導入を図り、意識付けをしたい。 ☆スカイメニューのポジショニングを使って、意見を視覚化し、自分や友達の立場が明確に分かるようにする。 ・両方の立場を交代して話し合う。自分とは、逆の立場に立って議論することによって、多面的、多角的に考えることができるようにする。 ○気持ちを考えることが苦手な児童には、発問ごとに個別に声をかけ、活動内容が分かるようにする。 ・ホワイトボードに話し合った内容を書くことで、意見を視覚化し、全員が参加できるようにする。 ・グループで1つの結論を出すのではなく、多様な考えを交流できるように促す。 ○考えが思い付かない児童には、グループでの話し合いで共感できた意見をもとに自分の意見を決めるよう助言する。 (評)自由の大切さを理解し、責任ある行動について自律的に判断しようとする気持ちをもっている。 (ノート・発表)

5 関連・発展

今後、修学旅行の計画を含め、生活や学習活動などの様々な場面を通して、周りの人への配慮を忘れずに、自他の自由を尊重しながら、責任ある行動ができる力を高めるようにしていきたい。